

NEWS LETTER

# KYU-UEDAKEJUTAKU

## INFORMATION

八尾市指定文化財 安中新田会所跡  
旧植田家住宅だより

Volume 06

2010年10月発行

講演会

## 近世大坂画人と河内

夏休み企画展示

旧家で愉しむ食事会

河内木綿いろいろ

こどもガイド養成講座





表紙写真・菅 楯彦《稲荷詣》全景

**菅 楯彦(すがたてひこ)**

**明治11年(1878)～昭和38年(1963)**

鳥取の倉吉で生まれました。父・菅大治郎は倉吉藩士でしたが、四条派の絵師・塩川文麟の弟子で、明治維新後、家族とともに大阪に移り住みました。しかし、父・大治郎は、楯彦が12歳の頃に脳卒中で倒れ、そのまま帰らぬ人となったため、楯彦が父から絵を学ぶことはほとんどなかったと考えられています。

明治27年(1894)に「舜帝盲父孝養図」で日本美術家協会展協会賞を受賞した楯彦はその後、独学で絵を学び続け、大和絵・浮世絵・文人画など幅広い様式を取り込んだ独特の画風を確立していきます。

名妓と呼ばれた妻・八千代と大阪を深く愛した楯彦は自らを「浪速御民」と称し、後に大阪市名誉市民となりました。

4

講演会

## 「近世大坂画人と河内」

講師：長谷洋一氏(関西大学文学部教授)



6

夏休み企画展

- 植田家に残る戦争資料展 & 写生作品展示 -

7

美味しかった！大満足！～旧家で愉しむ食事会～

8

河内木綿いろいろ

河内木綿まつり・栽培・講座



10

こどもガイド養成講座

11

出前授業

12

なにわの伝統野菜栽培日記

13

植松のまち・ひと

14

トピックス ①新うえまつぷ作成中②写真募集

15

今後のお知らせ



# 講演会

## 近世大坂画人と河内

現在、旧植田家住宅では秋季企画展「植田家と大坂画壇」(十一月二十九日(月)まで)が催されていますが、十月十七日(日)には関連企画として関西大学文学部教授の長谷洋一氏を招き、講演会「近世大坂画人と河内」が開催され、江戸画壇や京都画壇とは少し性格の異なる大坂の画人や大坂画壇についての知識を深める機会になりました。

講演の中で、大坂画壇の特徴として第一にあげられたのは、絵師(画人)同士のつながりが「師弟よりも知己」という関係で成り立っているということでした。幕府の直轄地(天領)だった大坂には大坂城のほか城がなく、本山格の寺院もありませんでしたので、狩野派に代表されるようないわゆる「御用絵師」が必要とされず、ヒエラルヒー(註1)を作

らなかつたのがその要因だということでした。なお、大坂画人というのは、大坂で生まれた画家だけではなく、江戸時代の大坂で活躍した画家すべてを指す言葉です。ですから、京都出身の与謝蕪村や播磨出身ともいわれる森一鳳(もりいつぼう)なども大坂画人に含まれてきます。

次に、大坂画壇の絵画は武士が好んだ水墨画や、公家が好んだ大和絵ではなく、画家の内面性や精神性を表現する南画(文人画)が好まれたことも特徴としてあげられました。大坂画壇の絵師は、多くが別に本業を営んでおり、絵を描くことは教養の一環であったり、「つきあい」の中からはじめたものであったりというものでした。ですから、せめて絵の中では世俗を離れた理想の場所(仙郷)に身

を置きたいという思いがあったということなのでしょう。

そういう背景をもって発展した大坂画壇はひとつの様式にとらわれず、絵師同士のつながりの中、さまざまな流派の絵を取り入れていったそうです。その中心にいたのが木村兼葭堂(写真右下)でした。北堀江にあった商家の長子として生まれた兼葭堂は、非常に多才な人物で、様々な分野で活躍しました。書画・骨董、書籍、標本などの蒐集家としてもひとかたならぬものがあり、その知識や蒐集品を求め、一説によると、累計九万もの人が兼葭堂を訪れたとされているとのことでした。

当初、大坂三郷(註2)の中で消費されていた大坂画壇の絵画が河内に広がる過程につ



谷文晁・画「木村兼葭堂」

いても、推察されていきました。長谷先生によると、木綿を売買する中で取引を含めた人間関係ができ、人とモノとの往来がうまれ、文化・文芸も同時に移動したのだろうということです。大坂の文芸が河内に広がったことに、大和川の付替えが関係していたということにはとても驚かされました。

最後に、植田家へのこされた掛軸のお話になりました。植田家では掛軸を「春」「夏」「秋」「冬」「祝」「仏事」に分類して収納していましたが、それは掛軸を美術品というよりむしろ、調度品として見ていたからではないかという事です。調度品は「場」に合わせて幅広いものが要求されます。つまり、特定の画風のものだけを集めていては実用性に欠ける



長谷洋一氏（関西大学文学部教授）

部分があるのです。そう考えると、大坂画壇のように多くの流派・手法が混在した掛軸は、様々な「場」にふさわしいものだったにちがいありません。

また、現在展示されている画帖や団扇図（写真左下）など、複数の作者による「寄り合い書き」についても、製作年代などが特定できる面白い資料だというお話でした。

大坂画壇の絵師は一部の有名人を除いて、現在でも無名のままであることが多いため、しまいこまれたまま忘れられている作品がたくさんあると思われます。心当たりのある方はどうぞ掛軸を開いてみてください。それは意外な「お宝」かもしれませんよ。

（註1）ピラミッド型の階層的組織構造

（註2）江戸時代の大坂市街地には本町通りを境に

北組と南組がつけられた。その後、大川右

岸（天満宮付近）が北組から分かれ、天満

組となった。この地域を総称して大坂三郷

と呼ぶ。



田能村直入「山水図」（部分）



酒井抱一、谷文晁、大田南畝ほか「団扇図」

夏休み企画展示

# 「植田家に残る戦争資料展」

&  
「写生活品展(ギャラリー)」

## 植田家に残る戦争資料展

旧植田家住宅の展示室では、七月十五日(木)～八月二十九日(日)の期間中、「植田家に残る戦争資料展」が開催されました。この展示では、植田家に残る資料の中から戦争に関するものが集められ、「時代によって移り変わる人びとの暮らし。戦時下で人びとはどのような生活を営み、どのように戦場の様子を知ったのか」をテーマに、時代ごとに分けられたおよそ二〇点もの展示品が解説とともに並べられました。

今回展示された資料は、日清戦争の開始された明治期から終戦直後の昭和二〇年(一九四五)頃までの約五〇年間、実際に生活で使われてきたものばかりで、それぞれが時代を色濃く象徴していました。例えば《陶器製の湯たんぽ》は、戦時中の金属供出にもなつて代用品として使われたもので、あらゆる生活用品が満足に使えなかった時代を思わされます。また、夜間空襲の被害に備え

て使用されたときされる「防空カバー」や「防空カーテン」には、簡素な素材で電灯の光が外に漏れないように工夫した当時の人びとの苦勞と生活の知恵が感じられます。

「双六」や「カルタ」といったおなじみの遊び道具にも当時の思想や教育が反映されたり、当時出版された雑誌や写真帖・画集には「生」の生活の様子や戦場の状況を知るための役割があったことが分かりました。そのほかには兵士を送り出す際の「出征のぼり」や「寄せ書き」なども展示され、人びとにくらしにおけるさまざまな想いを垣間見ることができた展示でした。



防空カバー、カーテン、湯たんぽ

## 施設周辺写生活品展示

同期間の七月二十四日(土)からは、展示室に隣接するギャラリーで「二〇一〇施設周辺写生活品展示」が同時開催されました。旧植田家住宅で年間を通して行なっている「施設および周辺地域の写生活品募集」に対して、今年の五月から七月までに応募のあった作品が一堂に展示されました。一般の方からの作品はかなりの力作ぞろい、普段は寂しいギャラリーも、この期間中はとても華やかになりました。また、子どもたちが描いてくれた旧植田家住宅の絵は、どれも実際の建物や場所がより魅力的に見えるように描かれた作品ばかりでした。

この写生活品の募集は現在も行なわれ、次回は九月～十二月までの応募作品が、来年の一月にギャラリーで展示されます。みなさんのご応募をお待ちしています。

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅

### 植田家に残る戦争資料展

～戦時下の暮らし～

時代によって移り変わる「人びとの暮らし」  
戦時下で人々はどのような生活を営み、  
どのように戦場の様子を知ったのか  
旧植田家住宅に残る資料から当時の生活の様子をみる

2010年  
7月15日(木)  
～8月29日(日)

休館日：火曜日、7月21日(水)  
開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【入館料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料  
【主催】NPO法人ゆたか

～夏休み特別企画～

2010年7月24日(土)～8月29日(日)

同時開催  
施設周辺写生活品展示(ギャラリー)

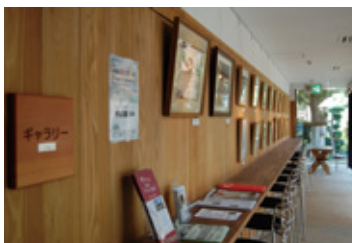
※観覧・参加無料(入館料が必要)  
※展示品の一部は期間限定で展示します

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒594-0001 八尾市(北条町)1丁目15-25  
TEL:072-937-0201 FAX:072-937-0202  
http://www.yutaka.jp/

【交通案内】  
○JR大和線八尾駅下車 南口より徒歩約3分  
の西大路駅(北条町)から徒歩約10分(徒歩約15分)  
○JR大和線八尾駅下車 南口より徒歩約3分  
の西大路駅(北条町)から徒歩約10分(徒歩約15分)  
※当施設は駐車施設がありません。公共交通機関をご利用ください。

夏休み企画展のチラシ



\* 応募に関するお問い合わせは、旧植田家住宅のホームページまたは施設窓口まで。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



## 美味しかった！大満足！

～旧家で愉しむ食事会～



八月五日（木）、今回の食事会に私達は三人で参加しました。前회가盛況で、惜しくも参加出来ず残念に思っていましたので、とても楽しみにしていました。

食事会の前に、学芸員の説明で邸内と展示を見学しました。友人は「主人は古い家を見るのが好きやからまた改めて一緒に来たいわ。」と説明を聞いていました。

暑かった一日の終わりに楽しみにしていた会食の始まりです。食器も植田家住宅所蔵の物で盛付けされ、これもまた嬉しい事でした。

「これはなに？」

「どうして作ってあるんやろー！」

「おいしいねえ。」

食材の中には、旧植田家住宅の畑で収穫された勝間南瓜や越瓜、また枝豆などもありました。なかでも私は南瓜の茶碗蒸しがとても美味しく、初めて食べた味と食感に感激でした。揚げ物には松茸もあり、これまた今年の初物で三人とも大喜びでした。「あと、お酒があれば申し分なしだわ！」とは友人の弁。確かに美味しい食事には旨い酒でしょうね。文化財の中の食事会なので、そこは我慢ということで！

あれこれと盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。食事の間にも落ち、ライトアップされた庭に心もクールダウン。落ち着いた雰囲気となり、帰路につきました。

調理をしてくださった「ひろなお」さんには、この暑い時期のこと、非常にお気遣い頂いたことと思いますが、私達は大満足！大感激でした。ありがとうございました。

中尾悦子（参加者）



## ふれあいとぬくもりの商店街



JR八尾駅前商業協同組合

# 河内木綿

## いろいろ



今年は残暑が厳しい年でしたが、最近季節がよくまりました。そうになると、やはり学問の秋や行楽の秋ということで、外に出歩く人が増えているようです。旧植田家住宅でも秋はイベントラッシュ。九月には河内木綿に関する行事がたくさんありましたので、ひとつずつ紹介していきたいと思えます。

### ●河内木綿まつり

九月二三日には河内木綿まつりが開催されました。天気はあいにくの雨。足元が悪い中、お客さんが来てくれるかとても心配だったのですが、なんと開館してすぐにお客さんが！今年は巡回バスも運行していて、それをきっかけに来られた方も多かったです。

さて、今年で二回目となる河内木綿まつりですが、主催の八尾市立歴史民俗資料館をはじめ、八尾市内にある各団体の協力のもと、

七箇所施設で開催されました。今年は「わたやん」という河内木綿まつりのキャラクターが登場し、スタンプラリーも開催されて、スタンプを三つ集めると「わたやんマグネットクリップ」がもらえ、さらに七つすべて集めると「わたやんテーブルセンター」が抽選で当たるといふ企画も行われました。



わたやんのスタンプラリー

旧植田家住宅では今年も、綿くりや糸紡ぎなどの体験コーナーがあり、これがなかなか好評で、来てくださったお客さん一人一人に体験してもらったことができました。みなさん最初はうまく紡げず、糸がぶちぶち切れたり、うどんのような太い糸になるのですが、じっくり時間をかけて練習しているときれいに紡ぐことができるようになったようで、終わったときに「紡いだ糸をもってかえりたい！」という方がたくさんいました。

子どもたちには、去年は紡いだ太い糸を台

紙にまきつけて「わたひつじのピンバッジ」を作ってもらったのですが、今年は綿打ちした綿を使って「わたばんだ」を作るといふ工作体験してもらいました。日ごろから子どもも来館が多い旧植田家住宅ですが、この日はいつも増してにぎやかでした。

お客さんの数は去年の半分くらいでしたが、なんと四〇人以上の方が足を運んでくださいました。そして何より、今年の河内木綿まつりは雨でしたが、旧植田家住宅のヒロシキ(板の間)から外に見える綿の花を眺めながらの糸紡ぎはなかなか絵になるし、雨にしとしと濡れている庭も、草木や苔の緑が映えて、とても綺麗なんですよ。雨の日にもぜひ旧植田家住宅を訪れてみてくださいね。



糸紡ぎの様子



## ●河内木綿の栽培

旧植田家住宅では、五月ごろから展示室の前にプランターを並べて、河内木綿や茶綿を植えました。河内木綿は米綿と違い、黄色い花が咲きます。また、繊維も短くて紡ぐのは難しいけれども、しっかりした糸がでるので、織れば厚地の丈夫な布になります。

河内木綿の栽培は思った以上に大変で、夏の暑い日は毎日朝夕、大量のヤブ蚊と格闘しながら水をやり、アブラムシやナメクジが湧いて出てくるので、ちぎっては投げちぎっては投げと奮闘し…。でも、手を掛けて育てた分、花が咲いたときは思わず「そだててよかったあ〜！」と叫んでしまいました。

一方、JR八尾駅の南口にある花壇では、河内木綿の伝承と駅周辺の景観づくりにも取り組んでおられる「JR八尾駅前商業協同組合」や「植松のまちづくりを考える会」の方々がたと河内木綿を植えました。秋になり、綿の実がはじける時期には、白いふわふわとした綿をとでもたくさん収穫することができました。また、花壇の空いたスペースには地元

の龍華中学校の生徒さんが花を植えたりして、木綿の花が咲き始めた頃にはよりいっそう駅前が華やかになりました。

結果として木綿の収穫量は、旧植田家住宅では河内木綿が一五〇gで、茶綿が一二〇g

ぐらいでした。そして駅前の花壇は、現在約二kg。まだまだ花は咲いているのでシーズンの終わりにには3kgほどになる予想です。



JR八尾駅前花壇=9月1日、撮影

## ●河内木綿講座

九月十八日には、旧植田家住宅の学芸員による講座「河内木綿の歴史〜初級編〜」がありました。小学生以上を対象にした講座の予定だったのでですが、当日は大人だけの参加だったので内容がすこし大人向けになりました

た。講座では日本への木綿の伝来や、大和川の付け替えによって河内木綿が発展したと、近代に入ってそれが大阪の繊維産業に大きく影響したなどがわかりやすく説明されました。去年は糸紡ぎなどの体験と講座がセットになっていたのですが、今年はそれはありませんでした。

今回の講座は「初級編」ということでしたが、次は「中級編」。次回たくさんの方の参加をお待ちしております！（個人的には）体験コーナーが復活することも期待しています。

## ●さいごに

九月の終わりごろから、徐々に団体で来館される方が増えてきました。団体さんが来る日は事前の打ち合わせや当日の解説など、目が回る程の忙しさなのですが、やはりその中にある出会いはおもしろいと思います。ユーザーな方であったり、色々と教えてくださったりと、いい刺激になり、とても良い経験となります。旧植田家住宅に来館された方や、この冊子を見ている方はもちろん、それ以外の多くの方ともご縁ができればいいなと思います。

ボランティア・スタッフ

萬田 明花里

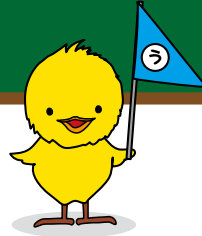


# こどもガイド

ようせいこうざ  
**養成講座**

8月28日

開講



夏休みも最後に近い八月二十八日(土)、第一回こどもガイド養成講座が開講された。今回の参加者は三名。日ごろから足しげく通ってきている子どもたちだ。

今回の養成講座では、大和川の付替えについて一通り勉強した後、普段は入ることができない土蔵の二階にある収蔵庫も見学した。日ごろから入ってみたいと思っていたのか、これが意外にも好評で、子どもたちはなかなかここから離れようとしなかった。体験学習では襖のはずし方、入れ方、箒と雑巾を使った畳の部屋の掃除のしかたのほか、たらいと

洗濯板を使った洗濯のしかたなどを学んだ。気温が三五度を超える暑い日に、冷たい井戸水での洗濯は心地よかったようで、なれない洗濯板を使って、楽しそうに雑巾を洗っていたのが印象に残っている。

最後には、今回の講座を修了したことを証明する写真入りの「こどもガイド修了証」が発行され、子どもたちはうれしそうに受け取っていた。なお、講座は夏休みや冬休みに全三回で開講される予定で、どの回からでも参加できるようにしている。

講座に参加した子どもたちにはその後、「こ



昔の道具の説明を熱心に聞く子どもたち



「洗濯板」を使って洗濯に挑戦！

どもガイド」としての自覚が芽生えたのか、物を大切にしようとか、きれいに掃除しようとかいった行動が見られるようになった。近ごろは子どもも消費者意識が強く、公共の場では「お客様」としてサービスされて当たり前、物なんてお金を出せばいくらでも買える」と勘違いしている傾向があり、眉をひそめたくなる場面が少なくなる。そういった中、些細なこととはいえ、このような意識の変化があったことは、地域教育の観点からも大変喜ばしいことではないかと思うのだが、いかがだろうか。

# でまえじゅぎょう 出前授業

動していく人材の育成を目的としています。

昨年度、モデル的に「出前授業」を二つの小学校で、実施させていただき、その内容をもとに、授業のメニューなどをまとめたパンフレットを作成しました。それを市内の小学校に配布し、今年度から本格的に「出前授業」を実施しています。これまでに、五つの小学校からの申し込みがあり、先生方との打合せを経て順次実施しています。

これまで実施した授業内容としては、小学四年生の社会科に習う「大和川の付け替え」に関するものです。八尾市内の小学校は、校区が旧大和川本流である久宝寺川（現

旧植田家住宅では、八尾市内の小学校を対象に「出前授業」を行っています。「出前授業」とは、旧植田家住宅の学芸員や専門スタッフが、郷土学習に関して説明する出張講義です。「出前授業」では、地域の歴史

やすこし昔の暮らしなどについて、子どもたちが興味を持ち、身近な地域に関心を強め、地域社会に対して主体的に活

長瀬川）と玉串川の流域か、または隣接している学校がたくさんあります。普段暮らししているまちにはかつて、約三〇〇年前、大きな川が流れていて、今とはずいぶん違う風景が広がっていたこと、堤の跡など今もその痕跡が多く残っていることを伝えていきます。大和川付け替えが自分たちの身近な暮らしに影響を与えていることを感じてもらえればと思っています。

この「校区のむかしと大和川」と題したお話は、最初に校区の今の様子の写真を紹介し、そのあと、航空写真で、今のまちの様子と二〇年前、三〇年前、五〇年前と昔の校区の様子を、今とどう違うのかを紹介し、その当時の八尾周辺のくらしを紹介しています。続いて、江戸時代の校区の様子を地図で紹介し、付け替え前の大和川がどこを流れていたかを紹介し、旧大和川と自分たちの住んでいるまちとの関係を紹介しています。

その後、旧大和川ができるに至った大阪平野の成り立ちや、大和川の付け替えの功労者である中甚兵衛の生涯を、生まれてから亡くなるまでのいろいろな出来事を年齢と共に紹介し、甚兵衛さんから見た大和川付け替えを紹介しています。また、江戸時代に栄えた舟運の柏原船や、付け替え後に干ばつがおこり堤を切り水を引いて、幕府に背いた罪で捕え

られた西村市郎右衛門もあわせて紹介するなど、教科書にないけれども、地域に関連深い内容なども紹介しています。

授業をさせていただき、近年、私たちのくらしの変化やテレビの時代劇の減少などで、子どもたちが昔のくらしや文化に触れる機会が減ってきていることを知り、この授業の意義を深く感じています。

これからも「出前授業」は続きますが、授業が終わった後、子どもたちが、「ありがとうございました」と元気に声をかけてくれたり、たくさん質問もあり、熱心に聞いてもらえているのだと感じています。その分、授業をする側として、わかりやすい内容を心がけないといけないと思っています。



出前授業の風景



## 【野菜の収穫祭】

まだ残暑きびしい八月二八日、春に植えた野菜の収穫祭を子どもたちと一緒に行了なつた。当日は、残念ながら胡瓜（きゅうり）と越瓜（しろり）は収穫が終わっていて、種取り用として残しておいたものだけとなつてしたが、南京と枝豆はまだまだたくさん実つており、参加してくれた七名の小学生（今回は女の子ばかり）と楽しく最後の収穫を終えた。

こうして汗をかいた後のお楽しみが「食べる」だ。しかしこの「食べる」にあたって子どもたちには、もういくつかの経験をしてもらう事にした。種取り用の胡瓜と越瓜の「種」を取ってもらふ作業だ。まず半分に切つた種取り用の野菜を、井戸水をためた大きな盥（たらい）の中にあるザルに入れ、丁寧に洗う。種が小さいのでやさしく扱わないとザルから種がこぼれて流れてしまう。案の定、「きゃー！流れてしまった」の声。「水つめたい！」「次やらして〜」、「私も！」、井戸舎を囲んで賑やかだ。

何とか種取りを終えると、今度は枝豆のサヤを枝から外し、きれいに洗う。この間にスタッフはカマドに火をいれ、お湯を沸かし、

## なにわの伝統野菜 栽培日記

取れたての枝豆を茹でる。これで子どもたちの仕事は終わり。後は「お楽しみ」だ。

あらかじめ炊いていた南京にアンコをつけて食べてみた。この食べ方はスタッフも初めてだったが、和菓子のようになかなか美味しかった。子どもたちも気に入ってくれたよう。何度もおかわりする子もいた。とれたての枝豆も「甘くておいしいっ！」と大好評で、あつという間に完食。

この日とれた南京は二二個。七人の子どもたちはそれぞれ二つ、三つとお土産に持ち帰つた。「おいしかったからお母さんに作つてあげるねん！」。真夏の畑作業、水やりを交替でがんばつたスタッフたちには何よりもうれしい一言だった。

そして十月半ば現在、新たに植えた冬野菜の芽がすくすく育っている。

### 【収穫を終えて】

当初、天候不良で不安はあつたものの、今回の収穫祭の分もあわせた結果、勝間南京Ⅱ三七個、毛馬胡瓜Ⅱ七三本、黒門越瓜Ⅱ五一個、そして今回初めて試みた八尾特産の枝豆も一・五kgとなかなかの収穫量となつた。



# 植松のまち・ひと

第二回

お神楽の音に誘われて、渋川神社へ

夏の異常な暑さからようやく開放された十月中頃、ふとお神楽の賑やかな音色が旧植田家住宅の建物に届いた。どうやら秋祭りのようなのだ。この音色の正体を突き止めるべく、さっそく植松の渋川神社に向かった。

渋川神社には樹齢千年といわれる大きなクスノキがあり、大阪府の天然記念物にも指定されている。彼はこの植松のまちを古くから知る証人というわけだ。ただこの老木にインタビューをするわけにもいかず、秋祭りの準備で忙しくされていた地元地域の方たちにすこしだけお話を伺った。

ちょうどこの日は秋祭りの真っ最中。ただ、お神楽などが実際に見られるのは夕方

## マンジークン

安富士 暁



### 「樹齢千年のクスノキが見守る、

### 人びとの祈りと憩いの場」

からだそうで、今回聞こえてきた音は、なんとスピーカーから流された録音だった。

それはさておき、神主さんが不在だったため、代わりに地域の方たちが親切に説明してくださった。どうやら渋川神社の祭りは、秋よりも夏が盛大で、多くの人たちが集うという。ここ渋川神社は、地元の人たちにずっと大切にされ、今日も人びとの祈りと憩いの場となっている。

この植松のコミュニティ・スペースは、地域の貴重な財産だとクスノキに教えてもらい、その場をあとにした。



※お話を聞かせていただいた地域の皆様、有難うございました。



おいしいお茶は心を豊かにしてくれます…

暮らしのお茶からギフトまで…

0120-19-1184



店主のおすすめ

深蒸し煎茶	芳水	100g/200g
深蒸し煎茶	清緑	200g
おいしいティーバック 5g×18パック		

おいしいお茶は専門店へ

## 龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828

## ①新うえまつぶ作成中！

植松のまちづくりを考える会が発行する「のんびり植松ぶらっとまつぶ」(通称・うえまつぶ)の第二弾「植松！すこし昔のくらしまつぶ」(仮)が、現在、同会とNPO法人HICALIの協力で作成されています。植松の歴史と景観が楽しめるという評判のうえまつぶの新バージョンということもあり、周囲の期待も高まっています。

今回の新マップのテーマは、ズバリ「植松のちよつと昔のくらし」。昭和三十年代～四十年代の植松のまちの様子が、商店街を中心に再現される予定です。またマップでは、次世代に遺したい歴史や文化、まちの風景とその暮らしぶりを、当時の写真を使って紹介します。

地図は来年一月頃の完成予定で、続いてお披露目を兼ねた「まちあるきイベント」も計画されています。新マップ完成の日が待ち遠しいですね。



## ②昔の写真、探しています

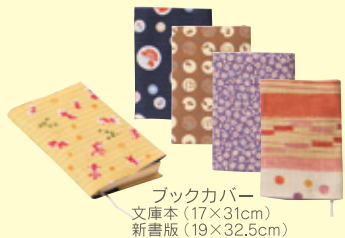
「新うえまつぶ作成」に関連して、旧植田家住宅では、むかしの植松地域の写真を募集しています。以下、募集チラシの内容の一部をご紹介します。

「植松のまちづくりを考える会とNPO法人HICALIでは、昔のJR八尾駅周辺からお店がたくさんあったころの植松を中心とした「まつぶ」の作成(記事①参照)に取り組んでいます。そこで当時の様子が分かる写真を探しています。風景やお祭り、地域の行事などの写真をお持ちの方はどうか協力ください。人物が写っているスナップ写真でも、周辺に懐かしいものや風景が写っている写真なら大歓迎！」

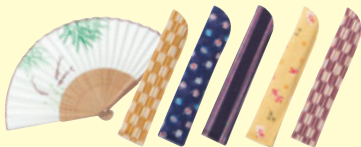
写真は主に昭和三十年代～四十年代のものを探していますが、それ以外でも大歓迎。たんすや押入れの奥にしまっておく写真を、ぜひ一度探してみてください。皆様からの情報をお待ちしております。

連絡先：旧植田家住宅

(072) 992-1531



ブックカバー  
文庫本(17×31cm)  
新書版(19×32.5cm)



扇子ケース・扇子付(24×5cm)

「りんごの木」では、障害をもつ人たちが  
ひとつひとつ丁寧に縫製品や  
手織り品をつくり働いています。

りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信貴福祉会  
りんごの木



〒581-0868

大阪府八尾市西山本町4-15-2

作業所: TEL/FAX (072) 993-4330

ショップ: TEL (072) 997-1440

営業時間: AM 10:00~PM 6:00

定休日: 日曜日(臨時休業あり)

## これからの展示・企画ご案内

### -展示-

- ◎10月1日(金)～11月29日(月)  
「植田家と大坂画壇」
- ◎12月1日(水)～1月30日(日)  
「大和川付け替え関連展示」  
※1月6日(木)～30日(日)  
「施設周辺写生作品展示」(ギャラリー)

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### -企画-

- ◎11月27日(土) 14:00～  
講座「八尾再発見～文学に見る八尾～」  
講師：伊東 健氏(今東光を語る会)
- ◎12月11日(土)  
ミニ講座「こどもガイド養成講座2」
- ◎12月26日(日)  
すこし昔のくらし体験「おもちつき大会」
- ◎1月23日(日)  
お茶会「煎茶を楽しむ」

(詳しくはお問い合わせください)

### 11・12・1月の休館日のご案内 ※○印が休館日

11 November						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12 December						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2011/ 1 January						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

安中新田会所跡旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください

※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車  
南出口より東へ徒歩 3 分
- 近鉄大阪線八尾駅から  
近鉄バス藤井寺駅前行  
JR 八尾駅前バス停下車  
南東へ徒歩 6 分
- 八尾市植松町 1-1-25
- 072-992-5311



JR八尾店は、旧植田家住宅  
より西へ約20M。ご利用を  
お待ちしております。

# 桃 林 堂

もなか  
常盤香  
大坂  
土

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(淡川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.tourindou100.jp>





と いんさつ  
“エコ綴じ印刷ってなあに？”  
(のり綴じ印刷)

## Vol.2 『人や環境にやさしい “エコ綴じ印刷”』

### 糊で綴じる“エコ綴じ印刷”

エコ綴じ印刷とは、印刷の過程で糊を使用して綴じる新しい製本方法です。従来の針金で綴じる製本方法だと、指をケガしたり、こどもが間違っ  
て飲んでしまったりといった危険性があり、安全・衛生に細心の注意が必要な場合や、異物混入のリスクを避けたいシーンでの使用は好ましくありません。  
(例：子供向け商品の説明書、食品関係の資料、製薬工場で使用するマニュアル等)

しかし、このエコ綴じ印刷ならそのような危険性もなく、安全です。そして、エコ綴じ印刷で作成した冊子なら、捨てるときに従来のような紙と針金を分別する作業は必要ありません。またそのまま資源ゴミとして捨てることができるので、リサイクルしやすいのが特徴です。

株式会社シーズクリエイトは、時代に先駆けて小さな工夫を重ねながら、資源を大切に、環境に配慮した技術と印刷物の開発をこれからも続けていきたいと思っています。

